

巻 頭 言

別府大学日本語教育研究センター長

松 田 美 香

別府大学日本語教育研究センターは2009年4月に設立され、今年で11年目を迎えます。研究のための『別府大学日本語教育研究』も本号で第10号となりました。

昨年度も「日本語教育講演会」を開催することができ、今回は徳山大学福祉情報学部教授で、司法面接研修トレーナーでもある羽瀧由子先生をお招きして、「外国人から話を聴く方法：『司法面接』の手法を体験しよう」と題して、ご講演とワークショップを行いました。内容は、トラブルに巻き込まれた外国人からいかにストレスなく話を聞き出すかの具体的なお指導で、最後に修了証をいただくこともでき、大変有意義な時間を過ごしました。この場をお借りして、羽瀧先生に御礼申し上げます。

第2次オリエンテーションにおいても、豊後高田市立呉崎小学校にて11月に交流会および「美術合同授業」を行いました。県内各地の小学生と本センターの留学生、本学の美術系コースの学生、さらに国際交流に興味を持つ留学生上級生が力を合わせて美術作品を作り上げるという形を踏襲しつつ、今回は呉崎小学校のある豊後高田市の名所や校舎を市の花である「コスモス」が埋め尽くすという、クレヨンと水彩の「はじき絵」技法を使った6枚の絵を制作しました。後日、呉崎小学校からは御礼のメッセージの詰まった冊子が送られてくるなど、大変良い交流の機会となりました。

今回も、本紀要には学外の4名の先生方からの御寄稿が掲載されることとなり、研究の面でも引き続き成果を出すことができました。

現在、私たちはかつて経験したことのない、世界規模の新型コロナウイルスとの攻防の中にいます。別科等ですでに日本に居住していた留学生と入国制限間際に来日することができた留学生とともに、感染対策をとりながらの授業の日々です。入学が決まっていて、自国で来日を待っている留学生もいます。

当たり前のように続けてきた留学生との日々が、多くの人々の力添えと留学生自身の長旅によって支えられていたことを再認識し、ここでの教育がそれに報いるものでありたいと思う次第です。

最後に、本号の刊行にあたってさまざまな形で御支援をいただいた方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和2年7月22日

